

編集後記

著者	田垣 正晋
引用	人間社会学研究集録. 2021, 16, P.91-91
その他のタイトル	Editorial
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017379

編集後記

第16号をお届けします。論文審査、編集にご尽力下さった方々に御礼申し上げます。私事ですが、この原稿を書いている時期に、本誌以外の学術誌の編集を終えようとしています。論文刊行は、査読、編集委員、印刷業者といった色々な方々のご支援で可能になることを改めて感じています。著者の皆さんは、厳しい査読コメントと格闘されたことと思います。

院生の皆さん、査読論文に挑戦し続けてください。ずいぶん前ですが、院生から、不採択になるのがこわいので投稿しない、と言われました。私自身、結果通知が来たときは今でも緊張しますから、この気持ちはわかります。しかし、採択の喜び、押しつぶされそうになるほどの修正要求、「お先真っ暗」の不採択といった体験は、院生のときからした方がよいと思います。なぜなら、指導教員や研究仲間といった、査読コメントへの対策や慰めの環境があるからです。査読コメントの意義、あるいは、コメントが誤解や不勉強に基づいていることがわかるかもしれません。特に後者の場合、再投稿をするか、別の投稿先を見つけるとよいでしょう。私が投稿あるいは審査を経験した学術誌では、編集委員が査読者のコメントの妥当性を吟味して、著者が対応しやすくしています。このような情報も、院生ならば入手しやすいですが、教員になった後は、難しくなるだけでなく、投稿を指導せねばなりません。投稿論文の採否だけでなく、査読への対応も研究の過程の一つです。

(文責 田垣 正晋)